

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

# 学術情報課程通信



LE LOUP

## 農大

## 情報の取得と整理の意義

教職・学術情報課程 課程主任 小梁川 雅

学術情報課程では、情報の取得方法とその整理、情報を適切に活用できるようにするための蓄積方法について教授し、その結果として学芸員や図書館司書といった資格の取得を目指している。一見するといかにも文系的な学問分野のように思われるかもしれないが、課程で取得させようとしている能力は、実は理系の学問分野でも重要な能力である。

私の本籍は生産環境工学科である。工学は科学知識を基とした技術の開発と改良を行い、そしてその技術を有効に利用することができる技術者の養成を行っている。これら関連分野に関する正確な知識の習得とその応用能力の育成を行わなければならない。ここで重要となるのが、情報の取得とその整理、蓄積の方法を身につけることである。

たとえば新材料の開発を行うためには、まず社会的ニーズとしてどのような材料が求められているのかを把握する

必要がある。そのためには現状の課題を明確化するための情報収集と整理が欠かせない。社会的ニーズが明らかとなると、これに見合った材料を開発するために実験や調査を行い、データの取得とその解析を行わなければならない。

「真実は実験によってのみ明らかとなる」という言葉がある。目的を達成するためには実験（調査を含む）を適切に行い、その結果を適正な方法で整理し、得られた結果を歪曲することなく解釈することこそが、真実を明らかにする唯一の道である。

このように、学術情報課程で扱っている、取得すべき情報の取捨選択とその整理分類、そして有効なデータベースの構築は、すべての学問分野において必要不可欠であり、学芸員や司書といった職種のみならず必要とされる能力ではない。多くの学生が在学中にこのような能力を取得し、それぞれの分野で活躍されることを期待している。

## 平成28年度 資格取得 状況

東京農業大学  
資格取得者数

学 部	学芸員	司書
農 学 部	73	26
応用生物科学部	26	14
地域環境科学部	43	16
国際食料情報学部	11	8
生物産業学部	31	—
合 計	184	64

東京農業大学  
短期大学部  
資格取得者数

学 科	司書
生物生産技術学科	1
環境緑地学科	1
醸造学科	2
合 計	4



## 我が図書館生涯

私が国立国会図書館（NDL）に入館したのは、一九七四年でした。そこから起算すると、図書館年齢は四三歳の「不惑」です。私が関与した仕事は、大きく言って四つあります。第一は図書館の資料・情報に関する書誌情報を作成し、それをベースに図書館サービスを行う「書誌コントロール」の実務と研究です。書誌情報は国内的にも国際的にも、標準的なものでなければなりません。それを保障するのが、規則や基準で「目録規則」「分類法」「件名標目表」等があります。私は、その中で特に「日本十進分類法」に力を入れてきました。一昨年、日本図書館協会分類委員会委員長としてその最新版である新訂十版を完成し刊行しました。殆どの日本の図書館で、使用されている標準分類法です。

第二は、資料・情報の収集・保存に関する活動です。国際図書館連盟（IFLA）の収集蔵書構築分科会常任委員会委員を務め、電子情報時代の蔵書構築は、利用者のアクセスまでを含めたマネージメントであるべきことを学びました。また、保存についても、NDLに設置されたIFLA資料保存コア活動アジア地域センター長として、国内外の保存協力活動を展開しました。特にスマトラ沖地震・津波による被災には衝撃を受け、限界を感じつつも復旧支援に微力を尽くしました。

第三は、海外の日本研究を支援することです。若い時分にオーストラリア国立図書館のアジア資料課に三年間赴任し、現地の日本関係資料の構築と図書館サービスに従事しました。また、三回に亘りメキシコ大学院大学のアジア・アフリカ研究センターに国際交流基金から派遣され、「日本情報センター」の設立と日本関係資料の構築について助言するとともに、日本研究に関する情報資源管理について支援をしてきました。

第四は、このような実務の経験に基づいて、科学的、理論的に「図書館情報学」の調査研究を持続し、後進の教育（司書の養成）に携わることでした。聖徳大学と本学に籍を置きました。

本学に来て、外の人から「東京農業大学に司書課程があるのですか？」と、謂れなき質問を受けることがありました。そんな時、私はこう答えたものです。「農業関係の専門図書館をご存じですか。例えば米国では国立農業図書館があり、農業振興、農業支援のため農業・農学関係の資料・情報の収集・提

供のほか農業・生命科学分野のデータベースであるAGRICOLAを作成している。さらに八つの専門情報センターが付置され、専門的な学術・農業データの提供を行っている。日本でも日本農学図書館協議会があり、事務局は本学に置かれ会誌も出している（写真）。農林水産研究情報総合センター等のサービスや、最近では公共図書館がビジネス支援活動の一環として地域の農業支援を始めており、それらを担う司書には農業関連諸科学を専攻した者が必要だ。」

さらに私は、「この国は、資料・記録・文書の管理に関する杜撰な考え方を早く改め、博物館、図書館、文書館（MLA）のような公的記録保存機関の機能充実を図らないと、『情報貧国』（文化後進国）と言われますよ。」と、余計なことまで言っています。欧米先進国に比べ、司書職制度は決して自慢できるものではありませんが、それだけに、実力ある司書の養成が重要です。また、それも文系の大学に偏っています。

## 未だ天命を知るに及ばず

学術情報課程教授

那須雅熙

### 進化する図書館

本学は農業総合大学です。博物学者で能吏でもあった田中芳男の博物館・図書館に対する総合的理念が、現在の学術情報課程に引き継がれてきました。理系の大学で学芸員と司書も養成することを目標に、自然科学の知見に富む、文化人たる貴重な人材を世に送り出しています。

職場として、公共図書館のみならず、大学、研究所、企業等の科学技術系の専門図書館（室）や各種の情報資源管理にあたる部門が有力ですが、そこではサッチャーとして調査や情報検索を行う学識と能力が求められます。また、最近では、文化情報資源の統合とデジタル・アーカイブの構築に向けたMLA連携の重要性が言われます。本課程では、学芸員、司書の両方の資格を目指す学生が増えています。条件が許せば、今後も二つの資格に挑戦し、マルチ型有資格者の強みを発揮してくれることを願っています。

古来、社会的記憶装置として図書館の使命・役割は変わりません。しかしその使命を十全に果たすためには、伝統を生かしつつ時代の変化に的確に対応する必要があります。最近の図書館では、急速な社会環境の変化や情報通信技術の進展を踏まえた改革が、積極的に推進されています。今やビッグデータ、オープンアクセス、オープンサイエンス、電子書籍、場としての図書館、生活と図書館等がたけなわの時代、取り組むべき課題が一杯なのです。

こんな面白い好機に、私は今年度で退職となり、ひとまず図書館生涯を閉じることになりました。図書館の未来はどう変わるのでしょうか。遂に「天命」（奥義）を知ること能わず、浅学菲才の身を振り返っています。



日本農学図書館協議会は、農学系研究情報の収集・管理・提供に関する情報管理技術等の調査研究、普及を目的に創設されました。日本農学図書館協議会誌を刊行しており、公共図書館の農業支援についても特集するなど、農学系機関に限らず個人も含め、幅広く会員を募集しています。

問い合わせ先 jaald@nifty.com

（事務局 東京農業大学・学術情報課程）



「あんたが来てから新聞に載るよね。」



沖縄こどもの国 園長兼専務理事  
高田牧場経営  
**高田 勝** Masaru TAKADA  
1960年 東京都生まれ  
1983年 東京農業大学拓殖学科卒業  
2008年 沖縄こどもの国勤務、現在に至る。

沖縄に移住した経緯を教えてください。

大学卒業後、財進化生物学研究所に二年ほど所属していました。その研究所に北部農林高校の先生が三ヶ月ほど短期研修でいらっしやうた際に、沖縄で農業をしたい意志を伝え、北部製糖の社長さんを紹介していただき、今帰仁村に土地を購入し農場を開設しました。

経営されている高田牧場の規模はどのくらいですか？

在来の豚、牛、馬、山羊、犬を飼育しています。豚は五百頭、牛が八十頭、馬は雌雄一頭ずつ、山羊は十数頭、琉球犬が一匹。年間出荷頭数は豚が約四百頭で、牛は五十頭ほどの専業農家で、スタッフは四名です。

牧場で多くの在来種を飼育されていますが、在来種についてどのような考えをお持ちですか？

今の世の中は経済的な価値観が基準のため、生産性の高い品種が用いられ在来種の数は年々少なくなっている。家畜だろうが作物だろうが多様性はとても重要だ。人間が生きる社会の持続性を考えるならば、少々経済性がなくても維持しておくべきではないだろうか。農作物や畜産物というのは、野生動物や生態

系の多様性とは別の意味合いを持っていて、時代の変化によってもものすごく変容する。それは時代の必要性に応じて変化するからで、百年後、二百年後には、その必要性がどうなるのか分からない。ただ、変化があった時のために、動植物に潜在する能力を維持していく考えが、人間の生き延びる力になるの

だろうと思う。地域性と言うのはその人為淘汰圧だけでなく、例えば害虫であったりウィルスであったり、暑さ湿度などの選抜圧等が、数百年単位で行なわれ、その地域に生きついでいるものですよ。そこに馴化しているならば、その地域で保全すべきだというのが僕の基本的考えです。先の世代を考えたときに、どこで何が起るかわからない社会の中では、そのキャバが広い方がよい。それは農学をやっている人間の根底にあるべきことだと思

現在の日本の農業についてどのようにお考えですか？

僕も農業をやって何十年にもなるけど、日本の農業がこんなに衰退すると思わなかった。日本を含めアジアは農業に対する意識が非常に希薄ですよ。現在、大学の受験者は減っていないけれど、農民は疲弊し、農村も疲弊し、農家の衰退は著しい。私たちは何のために農学をやるのかということ、根本的に考えるべきだと思

学問と現場は乖離していると思。試験研究やサンプル採取のためにフィールドに出る人

は多いが、本当の農家の苦しみは実際に農業で飯を食ってみないと分からないかもしれない。

沖縄こどもの国に来た由縁は何ですか？

最初は、沖縄こどもの国で「沖縄の在来豚を手に入れたので観にきてくれ」と呼ばれました。それが最初の関わりです。その後、大学院大学の研究者が沖縄で「野生から家畜へ」というテーマで研究合宿したとき、僕がコーディネートをしました。その時にこどもの国の在来家畜の話題も組み込んだ経緯がある。

その後、先代の施設長に「来てくれなにか」と呼ばれました。ここは十五年前に財団を解散し、その時に僕の年代の多くの人が辞めてしまったので、中継ぎとして呼ばれたのだからと思った(笑)。実際ここは人生の目標の中に、初めから入っていたわけではないのです。

こどもの国のンマハラセー(琉球競馬)のイベントについて教えてください。

在来種を観光事業につなげることで、生き残らせられないかと考えていた。動物によってそれぞれに対策を考えなければ生き残れないが、馬については、かつて沖縄に民俗文化として存在していたし、洋式競馬とは全く異なる「ンマハラセー」としてなら、観光事業になるかもしれないと考えて計画した。

高田さんにとって学芸員の仕事とは何ですか？

学芸員の講義で習うのは基礎的なことだと思。学芸員資格を持っているという事が重要なのではなくて、社会に出てその知識が応用できるかどうかを試されます。

沖縄こどもの国は、人は来ない、お金はかかるということでも、もう閉園したほうがいいと言われた時期があった。先代の施設長は、経歴も経営ノウハウもある方だったけれど、経営ノウハウのない僕は、どうやって世の中にこどもの国を発信していくかを考えました。それは情報をどうマネジメントしたらよいかという学芸員としての基礎に基づいています。一番マスコミがとつきやすいことは、非常に上っ面

ではあるけれども、センサーショナルなこともうひとつは社会への問題提起です。つまりここがいかに社会的に重要なことを行なっているかを知らしめることでした。

学芸員課程の授業でやることを応用して、この必要性を常にマスコミに対して情報発信し続けました。ここが「活性化している」と、多くの人に伝えることをしました。市や県がお金を出しているのだから、市長や議員の人たちに「あそこ施設は必要だ。」と思わせることが、僕の学芸員としての役目だとも思っていました。

僕が初めてここに来た時は、飼育課長の役職だったので、その時シルバー人材の方々に、「あんたが来てから新聞に載るよね。」と言われました。他にも、市長選で候補が「沖縄こどもの国は必要ない。」と発言されたらとても不利になりますよね。実際、前回の市長選の時には、保守派も革新派も、沖縄こどもの国を良くすることを選挙公約に入れていました。

来園者への情報提供は当然ですが、裏方の仕事として、どうやって戦略的に情報をマネジメントするかが非常に大切だと思

取材 高橋祐也(国際農業開発学科4年)





学科	就職先
農学科	栃木県立博物館(嘱託)
畜産学科	東京都井の頭自然文化園(嘱託)
畜産学科	環境省対馬野生生物保護センター(嘱託)
畜産学科	公益財団法人 東京動物園協会(嘱託)
畜産学科	長野市茶臼山動物園
バイオセラピー学科	株式会社グリーンディスプレイ(企画・展示)
森林総合科学科	川崎市夢見ヶ崎動物公園(嘱託)
森林総合科学科	公益財団法人 東京都公園協会
造園科学科	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
造園科学科	ふなばしアンデルセン公園
国際農業開発学科	株式会社 昭栄美術(企画・展示)
科目等履修生	高尾599ミュージアム

学科	就職先
バイオサイエンス学科博士前期課程	東京大学附属図書館
森林総合科学科博士前期課程	宮内庁宮務課(図書資料係)(嘱託)
農学科	府中市図書館
食料環境経済学科	環境省大臣官房総務課環境情報室(嘱託)
食料環境経済学科	東京レコードマネジメント 株式会社
科目等履修生	市川市立図書館

  

既卒 学芸員	ア쿠アバイオ学科 25年卒	紋別市立博物館(嘱託)
--------	---------------	-------------

現役  
学芸員

現役  
司書

既卒  
学芸員

# 農事遺産

④

## 農大古農具コレクション



撮影・鈴木 迅

藁文化は、農村の暮らしを象徴するものの一つとして捉えられ、農民と藁の深い関わりをそこから垣間見ることが出来ます。藁とは稲や麦などの茎を乾燥させたもので、古くから農作業や暮らしには藁で作られた道具が数多く存在し、地域によって様々な種類があります。笠や蓑、草履、沓など、全身を藁で覆う程のものもあります。殊に厳しい雪国の暮らしの必需品であった藁グツ(写真)は、機能性に優れているだけではなく、造形美を感じさせてくれます。藁細工のなかでも傑作とされ、製作には二日程かかるといいます。踏を傷めないように牛馬に履かせる草鞋もあり、かつて家族同然だった家畜への思いも窺い知ることが出来ます。

藁の民具は破損すれば補修されますが、何れ燃やされるか堆肥として還元されることから消滅を前提とした民具です。しかし、それを造る技は祖先より伝承され、世代を超えて新たに再生されます。そこには子孫へ伝わる「技のDNA」が存在しているかのようです。(Y)

資料名：藁グツ  
 寄贈者：新潟県津南町  
 収集：農友会農村調査部 1968年  
 形状：高さ32.0cm 靴底の長さ28.5cm

学術情報課程通信 第6号  
 GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学  
 学術情報課程 発行

〒156-8502  
 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
 電話 03-5477-2530

レイアウト・印刷/共立印刷株式会社  
 平成30年(2018)年2月28日 発行

www.nodai.ac.jp/info

表紙「オオカミ」エドワード・トラヴィエ画(スティール版画手彩色)『新ビュフォン全集』1837年パリ刊行 学術情報課程蔵

## 編集後記

図書館・博物館等施設と地域の連携は、すでに新しいステージに踏み出したといえる。館や園は、その外壁を物理的にも観念的にも超越し、歴史、自然、科学技術、芸術などその全てを連結し、地域の伝統と未来の新しい道筋を創出しようと格闘している。(R)